

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備	事業番号	41	事業名	雪害対策道路(一般防雪)					
市町村名	長野市		ふりがな 箇所名	(主)長野(停)線		すえひろちょう 未広町	事業年度 (完了年度は見込み)	H23 年度 ~	H23 年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	無散水消雪施設設置工 L=90m W=1.5m					H22年度末事業進捗率	0 %				
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0 %				
	H23年度実施内容	無散水消雪施設設置工 L=90m					用地補償費ベース	0 %				
	年度	全体事業費		H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降					
財源内訳	事業費計(千円)	120,000		0	0	120,000	120,000					
	国庫支出金	72,000		0	0	72,000	72,000					
	その他											
	県債											
	一般財源	48,000		0	0	48,000	48,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部	政策評価課		
	(20)	必要性	道路種別	一般国道	主要地方道	一般県道	ランク	3	ランク	3		
		道路特性	縦断勾配6%以上又は合成勾配8%以上又は交差点	前後にトンネル等(除雪不要区間)が連続している	その他	A	10	A	10			
		沿道状況1	沿道状況1	人家連担又は踏切	人家点在	その他		3		3		
		沿道状況2	沿道状況2	通学路	その他			0		0		
		小計							16		16	
	(20)	重要性	地域特性	特別豪雪地帯又は豪雪地帯	積雪地域	その他	A	10	A	10		
		緊急輸送路	緊急輸送路	第1次緊急輸送路	第2次緊急輸送路	指定なし		5	A	5		
		自動車交通量	自動車交通量	4,000台/日以上	1,500台/日以上 4,000台/日未満	1,500台/日未満		5		5		
		小計							20		20	
	(30)	効率性	早期発現度	残年数2年以下	残年数3年~5年	残年数6年以上	A	10	A	10		
		コスト縮減の工夫	コスト縮減の工夫	配慮している(維持管理コスト)	配慮している(その他)	配慮していない		10	A	10		
		自然エネルギーの利用	自然エネルギーの利用	利用している	利用していない			5		5		
		小計							25		25	
	(15)	緊急性	迂回路の有無	なし	あるが安全性が低い	安全性の高い迂回路有	A	10	A	10		
路面凍結事故履歴		路面凍結事故履歴	過去5年以内に複数回	過去5年以内に1回	履歴なし		5		5			
小計								15		15		
(15)	計画熟度	地域からの要望項目	地域住民の内発的な活動が強い	市町村等からの要望がある	特に要望がない	A	10	A	10			
	事業情報の共有について	事業情報の共有について	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		3		3			
	小計							13		13		
評価の合計								A	89	A	89	
事業	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は、JR長野駅から長野中央通りへと通じる幹線道路であり、善光寺への表参道に位置する。現在、市道を含む駅周辺道路には、無散水消雪施設が設置されているが、当該箇所は、過去、アーケードが設置されていたことから無散水消雪施設が設置されておらず、冬期における降雪時や凍結時には歩行に危険を伴う状況である。よって、無散水消雪施設を設置し、冬期の安全かつ円滑な歩行空間を確保したい。										
	地域からの要望経緯	H21.5月 地元商店街、地元住民(区)より歩道の消雪施設設置を求める陳情が寄せられている。										
	事業説明等の経緯	H23.2.14 長野市と協議済み。										
	環境・景観への配慮項目	無散水消雪の熱源は、CO2の発生を極力抑えるため、地下水を利用し、循環式で環境に配慮する。										
	他事業・プロジェクトとの関連	・A3地区市街地再開発事業により、当該箇所の冬期の日照時間がほとんどなくなる。 (冬期における日照時間は午前8時~午前9時の1hのみ) ・A3地区市街地再開発事業の関連として、長野市が当該箇所の南側歩道内へ無散水消雪施設の設置を行う。										
特記事項	DID地区、商業地域											
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他							
部意見	JR長野駅から長野中央通りへ通じる歩行者の非常に多い区間であり、冬期の安全かつ円滑な歩行空間を確保するため、平成23年度に事業着手し、平成23年度冬期前に完成させたい。				政策評価課意見	重要性、緊急性が高く、必要性も認められる。						